

## 38 IT IS A DONATION TO OUR HOME TOWN

下の写真は、吉備中央町吉川の天台宗光林山神護寺境内のさる記念碑です。昭和6年10月17日に建てられました。碑面には「IT IS A DONATION TO OUR HOME TOWN」つまり「これは我々の故郷への寄附である。」とあります。一体何の記念碑？



吉川神護寺の記念碑

神護寺と言えば、足守白坂地内を通る新山・岩屋道の路傍にあった「お茶堂」の主で、死後「宇宙上人」と諡された並川舜憲大律師の父並川舜恵師が住職を務められたお寺です。

聞けば記念碑建立の経緯は次のとおりです。

昭和3年旧暦8月15日の夏祭りの花火が、鐘楼内1階に積んでいた屋根葺き替え用の茅に燃え移り、吉川史によれば「鐘楼全焼、梵鐘又破損して全く其の用を成さず、村民浩嘆日夜痛心措くところを知らず」の有様となったのですが、「在米の藤田地区出身辻田八百蔵君等8名の郷土熱愛至誠の奉仕の大精神を以て寄附せられたる尊き賜をもって吉川村永劫に輝く一大記念物として改築成れり。」ということで、つまり、在米の吉川村出身者8名から郷土のお寺への復興寄付金を記すものなのです。

さて、ここまでくると大井神社境内のそこかしこに名を刻みながら時代の波に抗しきれず単身渡米した大井の元成政右衛門さんを思い起こす方があるかも知れません。吉川の辻田さんは、明治38年に渡米、工夫等を転々とした後ワシントン州でポテトの栽培と理髪店経営に従事しました。元成さんの渡米時期と仕事の内容は不明です。しかし、故郷思いの二人は、かつての日本人特有の「勤勉さ・辛抱強さ」をもって成功したのではないのでしょうか。

当時の海外移民は、日本の人口・食糧問題解決策の一つとして国策としてとられたものです。アメリカ移民の発展時期は、明治18年（1885）から米国民法改正の明治40年（1907）迄とされています。

右頁の表は、明治のある時期の岡山県からアメリカへの出稼移民の統計です。吉備郡からの数がダントツです。吉備郡といいながら、その実態は木下家御領地、しかも、寛政の国替え後も藩領として残った阿曾、足守、大井、栗井の足守川流域に集中しているといっても過言ではないでしょう。では、何故この地区に集中したのでしょうか。大きな理由は二つ…。藩財政の窮乏と一寄生地主への土地の集積です。



左 大井・元成さんの寄附金碑

もちろん帝国財政の舵取りも…。

話しは長くなりますが、まずは国替で2万5千石の内22,289石が生産性の低い奥州へ持って行かれたことによる実質7千石の減少。次いで、延宝（餓死者29名）・享保・天明・天保の大凶荒。さらには、元禄、享保、延宝年間の5度に及ぶ藩江戸屋敷の炎上、加えて、ペリー来航に伴う御用金負担などが挙げられますが、農業以外に税収のない藩では、年2千両を超える赤字に背に腹は代えられず、無理を承知で農民から過酷な収奪を行ったのです。当然、農業経営は大きく停滞しました。

一方、この後、寄生地主となった鍋屋藤田林蔵は、鍋の行商の傍ら、木綿の買い付けに目を付け相当な利益を上げます。そうして得た金で金融業を営み、御用商人の株を買い、藩米（御用米）の庭瀬までの輸送を請け負い、これに林蔵自身の米を積み領外に持ち出し利益を上げ、明治20年には88町歩の小作地を持つ一大寄生地主に成り上がりました。明治末の足守の小作農の割合は76%（自作80戸・小作246戸。因みに、福谷村は40%です）。小作料は六割という高率で小作争議も絶えませんでした。

このような江戸時代末から明治にかけての農村社会の現状を見れば、この地から出稼移民を多数送り出したことは決して偶然ではなく、いわば、海外移民は、この地域における最も自然な現状打開策であり、生活を向上させるがための農民の足掻きの表れでもあったのです。（岡山大学教育学部「陣屋町の研究」）



下土田観音堂建築寄付金碑

つまり「我々は心から故郷の平和と幸せを祈る。」

このことは、遠い異国で重労働に喘ぎながらも故国に馳せる、吉川の辻田さんたち、大井の元成さん、下土田の方々日本人共通の思いであったに違いありません。

アメリカ出稼移民の推移 (岡山県統計年報)

明治	出稼 (括弧は吉備郡)	全数
36	606 (331)	942
37	432 (213)	647
38	405 (187)	639
39	2,069 (918)	2,473
40	1,149 (456)	1,636
41	183 (73)	302

(全数とは出稼目的以外も含む意)

左は、下土田地内に大正2年2月7日に建立された、観世音堂建築費寄附者連名と記された板碑です。よく見ますと、上段に渡米者23名、下段に村方連中26名の寄付金額と氏名がびっしりと刻んであります。まさに、この地域を象徴する歴史的記念物と言えるかも知れません。

そして、かの神護寺の記念碑の英文は、次の様に結んであります。

「WE PRAY FOR PEACE AND HAPPINESS」